

安住寺だより



禅の心

第153号

発行 安住寺（年4回発行）

臨済宗南禅寺派

大分県杵築市大字南杵築379

〒873-0002 TEL 0978-62-2680

URL <http://www/anjyuuji.jp/>

編集 矢野明玄 2・3頁

矢野玄德 1・4頁

謹賀新年

檀信徒の皆様には、無事に新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年も倍旧のご法愛をお願い申し上げますと共に、皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

平成二十八年歳旦

日光東照宮の三猿



代表責任	矢野明玄
役員住職	矢野明玄
責任役員	矢野玄德
責任役員	川上浩
総代	植本文一郎
総代	清末静男
総代	川野省三
総代	中村文三
総代	西正文
総代	松本文次
総代	吉田正次郎
合掌会長	是久妙

大般若・初観音講

一月十七（日）十一時より

一年の無事を祈願する年頭の行事です。是非お参り下さい。午後には、初観音講です。午後も続けてお参りの方は、お弁当の用意をしますので出席の届けをお願いします。

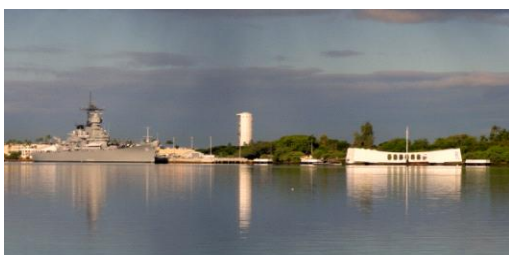
不戦の誓い新たに

昭和十六年十二月七日（現地時間）

日本軍の攻撃により戦艦四隻が沈没。二千名を超える兵士が死亡。戦艦アリゾナは、日本軍機の攻撃によつて艦内の火薬が破裂し、千余名の兵士と共に沈没しました。終戦後、遺構を乗組員の追悼と真珠湾攻撃自体を記念する慰霊碑としてアリゾナ記念館が造られている。その館内で、当日一緒に船で渡った人たちが見守る中、読経し供養することができました。



その後、バスで移動し終戦の調印式が行われた戦艦ミズーリを見学。重光葵全権大使が調印した艦上の現場も見ることができました。また調印式のエピソードや大戦中のミズーリの活躍、唯一の日本軍機が体当たりした痕跡、その機深い見学となりました。



左がミズーリ号、右側がアリゾナ記念館

世界は未だに戦争が続く、テロ事件が頻発しています。何となく日本も「絶対に戦争はしません」と、確約できないような雲行きを感じています。『見ザル、言わザル、聞かザル』で知ぬふりをすることなく、不戦の誓いを新たにせねばと、強く思う。

《閑栖》

新年を迎えて

新年あけましておめでとうございます。

安住寺檀信徒の皆様におかれましては、心新たに平成二十八丙申の新春を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

旧年中は、総代様地区世話人様をはじめとし、皆様方に御法愛を賜りましたこと、心より厚くお礼申し上げます。

今年の干支色紙には、檀信徒皆様にめでたい光が差し込めるようにと、拙筆乍ら「瑞光」と讃をさせて頂きました。

本年も何卒よろしく願ひいたします。



安住寺の庫裏の脇には、玄海和尚が植えられた洋松が高くそびえています。

ます。禅宗のお寺では松が好んで植えられます。



さて一月十日は「臨済忌」で、本年は宗祖臨済義玄禅師の一一五〇年の遠諱に当たります。

『臨済録』の序文の中に「巖谷に松を栽う」とでてくる。深く岩の多い険しい谷に、松を植えることであるが、行録にある「臨済栽松」の因縁を示したものです。それは、臨済禅師がまだ黄檗山に居た時の次のよう
おうばく
なお話です。

師、松を栽うる次いで、黄檗
そくばく
問う、深山裏に許多を栽えて、何をか作ん。師云く、一つには、山門の与に境致と作し、二つには、後人の与に標榜と作さん。道いって、

かくとう
と
鏝頭を將つて地を打つこと三下す。

ある日、臨済禅師が松を植えていると、師の黄檗禅師が来て、「こんな山奥に、わざわざ松を植えてどうするつもりかね。」と尋ねました。

すると臨済禅師は、「一つにはお寺の境内に美しい趣を添えたいと思い、もう一つは、後世の人のために修行の標榜としたい。」そう言つて鋤で地面を三度たたいた。

黄檗禅師から松を栽える理由を尋ねられた、臨済禅師は、「一つにはお寺の境内に美しい趣を添えたいと、一つには後世の人のために修行の標榜としたい。」と言われた。しかし、臨済禅師にとっては、ご自身の修行専一の行であつたはずで、
そくばく
禅では作務を重んじる。草取り、雑巾がけ、薪割り、あらゆる労働に心を込め専一に修行をする。

中村文峰老師の隠侍をしていた修行時分、こんなことがありました。

同僚の隠侍が、畑仕事が終われば、「畑の土を耕し終わりました。」と報告。

庭の掃除が終われば、「落ち葉は全て掃いて、きれいになりました。」と報告。

書庫の本の整理が終われば「本は元通り整理できました。」と逐一報告をしておりました。

とうとう文峰老師も呆れて、「あなたは、一々自分のなした成果を報告し、顕徳にしようとする。そんなことでは何もならん、陰徳が積めるようになって、はじめて一人前だ。」と諭されました。

私も、それを聞いてハツとして、自らを省み、「陰徳、陰徳」と心に刻み作務をしたのを思い出します。

私たちの日常は、実利的で“金”にならないことはしない、“楽”“出来んことはダメ、そんな社会です。確かに人間にとって人から認められ、労働が対価となり、生活が豊かに便利になることは重要なことです。

しかし、その実利一辺倒が、人を富や名声に走らせ、人間味を失った殺伐とした社会にしてしまふ、弊害もあるのではないのでしょうか。

永平寺の大庫院の前に掛けてある、大きなすりこぎを詠んだ歌があります。

身を削り

人に尽くさんすりこぎの

その味知れる人ぞ尊し

すりこぎのように、身を削り一心に励むことが大切であるが、その苦労のわかる人は、さらに尊いということとであります。



巖谷に松を栽え、「山門の境地となり、後人の標榜」を想われた、臨済禅師、歴代住職の想いととも、この一年「人に尽くさんすりこぎ」になれるよう努めていきたいと心新たにしております。

本年も檀信徒の皆様のご指導ご鞭撻よろしく願いたします。

明玄合掌

《除夜の鐘》

除夜は、一年最後の日「除日」の夜のこと。「除タ」とも呼ばれ、旧年を除くという意味。

各お寺では、除夜の鐘を撞き、音とともに一年の煩惱を祓い、心新たに新年を迎える。

除夜の鐘は、百八つ撞かれるわけですが、なぜ百八つかご存知ですか。諸説ありますがいくつかご紹介いたします。

◎一年のうちの二十四節気の数と、七十二候の数を足したもの。

◎四苦八苦を数であらわし、
(4×9) + (8×9) = 百八としたもの。

◎人間の煩惱は、眼(色境)・耳(声境)・鼻(香境)・舌(味境)・身(触境)・意(法境)の六根(六境)に「好・平・悪」の三通りがあります。

さらに、それぞれ、染(きたない)・浄(きれい)の二通りがあり、それに過去・現在・未来の三世にわたり、悩みや苦しむとされ、それぞれの数を掛け合わせ、

六根6×「好・平・悪」3×「染・浄」2×三世3 = 百八となる。

まだまだ諸説あるようですが、煩惱に限って言えば、根本は「貪・瞋・痴」の三毒であり、広くは八万四千と言われるほど多い。

とは言え、除夜の鐘を撞いて、新しい年がよい年になるようにと願うことも、煩惱の一つだろうし・・・なんぼか煩惱もなけなつまらんのじゃろう。

【日々是好日】

●九月二十四日合掌会主催の敬老会が和やかに行われました。寺報の発行時期の関係で、なかなか記事になりませんので、今回は写真を掲載します。



●十月二十七日、第六回杵築市仏教会交流グラウンドゴルフ大会が開催され、今年度は三チームが参加しました。Aチームが七位に入り健闘。座禅会の会員を中心としたチームはブービー賞でした。ご参加いただきました皆さんお疲れ様でした。●十月二十八・二十九日、南禅寺派二十四部の支部長を、お務め頂いております、総代の植木文一郎様に、本山支部長会議に参加していただきました。後日、丁寧な報告を部内和尚様にもいただきました。ありがとうございます。●十一月十五日、部内大分市古国府の佛光寺様の晋山式に参列させていただきました。●十一月二十三日・チャリティバザー。二十七日・奉仕作業。両日ともに合掌会の皆様にはお世話になりました。●一月十七日の大般若祈祷会法要には、部内の和尚様、長男・長女もお参りいたします。今年日は曜日となります。たくさんの方にお参りしていただければと思っております。



色紙プレゼント

廣石碩田先生より頂戴しました。
ご希望の方はお申込み下さい。

難、刀杖（武器）難、悪鬼（死霊）
観音経には、次の七難が説かれて
います。火難、水難、羅刹（悪霊）
難、刀杖（武器）難、悪鬼（死霊）

③ 七難
また七難」と口にします。
この世の中は、災難の種は尽きず次
から次と湧き起こってきます。苦し
んでやつとのことで乗り越えたのに
また災難が、という経験をお持ちの
方も多いと思います。

仏教と数字

数字で表現する仏教
の教えを紹介します

難、枷鎖（拘束）難、怨賊（盗）難、
の七つです。火や水など、物理的な災
難だけでは有りません。すぐにカツと
なったり、〇〇に溺れるのも火難・水
難と言えます。人の地位や持ち物を羨
んだり欲しがったりするのも盗難の一
種かも知れません。手かせ足かせ、人
間の苦悩は果てしなく続きます。なぜ
でしょうか。悩ましいことです。
暮れには百人の鐘を撞き、貪・瞋・
痴の三毒を打ち払って、貪りの心を捨て
たはずなのに、もう起きたのは誰？。

平成二十八年
年回忌表

年回忌仏事は、
人を偲び、敬い、つ
ながる「いのち」を
再確認する意義深い
行事です。兄弟や親
戚との絆を深める場
に致しましょう。

年回忌・没年

一周忌・平成二十七年
三回忌・平成二十六年
七回忌・平成二十二年
十三回忌・平成十六年
十七回忌・平成十二年
二十五回忌・平成四年
三十三回忌・昭和五十九年
五十回忌・昭和四十二年

バザーと奉仕作業

合掌会行事

隔年で実施
しています

第十八回目のチャリティイ
バザーが開催されました。
今回も会員持ち寄りの品
物が格安で販売され、午前
中で店仕舞になりました。
経費を差し引いた売り上げ
金は、八万六百四十五円で
した。市社協へは、二年に
分けて寄付する予定です。

ご苦労さまでした

十一月二十七日は、奉仕
作業に会員二十二名が参加
し、諸堂を掃除しました。



奉仕作業に参加の皆様です

お勤めを休んでこられた方
や高齢の方も一生懸命頑張
って掃除をされました。地
区役員さんの他、毎年参加
の方も居られました。ご苦
労さまでした。（会長・是久）

行事予定

一月三日	役員年始会
一月七日	独秀流御詠歌
一月九日	早朝坐禅会
一月十七日	大般若・初観音講
一月二十一日	写経・写仏の会
一月二十三日	早朝坐禅会
二月八日	独秀流御詠歌
二月十三日	早朝坐禅会
二月十七日	御詠歌・観音講
二月二十二日	写経・写仏の会
二月二十七日	早朝坐禅会
三月二十二日	写経・写仏の会
独秀流御詠歌	三月七、十七日
早朝坐禅会	三月十二、二十六日
説教会	四月二十二、二十三日